

復興支援フォーラムニュース No.16

(URL <http://www.5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先 今野順夫(tkonno67@gmail.com) 中井勝己(024-548-8313)>

移転避難商工業復興の課題と方向

～浪江町復興まちづくりと事業再開支援の経過から～

一般社団法人福島県中小企業診断協会 佐藤健一

※診断協会として、警戒区域など移転避難・休業を余儀なくされた企業の復興支援の方策について、浪江町商工会を対象に調査した。以下はその概要である。

1. 復興の現状と課題

(1) 浪江町復興の現状

- ア) 19,600人の住民の73.3%が県内に避難（平成24年5月24日現在）
- イ) 移転避難先の都市別では福島市3,811人、二本松市2,708人、いわき市2,048人、郡山市1,571人、南相馬市822人が上位。
- ウ) 仮設住宅より借上げアパートに避難の住民が多い。
- エ) 仮設住宅では未だに空家がある（入居率78.6%）。

(2) 商工会員復興の現状

①事業再開の現状

- ア) 浪江町商工会617会員のうち、アンケートで「事業再開した」との回答は158件（25.7%）で、双葉郡内の商工会では最も低い。（平成24年5月各商工会調べ）
- イ) 業種別では商業、サービス業の再開比率が低い。
- ウ) 他の商工会が建設・原発関連の業種の割合が高いのに比べ、浪江町は都市型の産業構造で商業サービス業の割合が高いためと思われる。

②事業再開の課題

- ア) 事業再開していない会員の理由は、「企業避難先等で再開しても顧客がいないため成功する確率が少ない」が最も多く110件（27.9%）。次いで「いつ浪江町に戻れるかどうか分からない」91件（23.1%）。以下「新たな資金調達が困難」49件（12.4%）、「二重ローンを抱えるリスクを負いたくない」44件（11.2%）、「後継者がいないため」26件（6.6%）、「再開したくても、自分の条件に合う支援メニューない」25件（6.3%）、「事業再開に向けての情報が少ない」17件（4.3%）、「その他」32件（8.1%）となっている。（平成23年8月アンケート調査）

イ) 一方再開した会員について、今後の売り上げの見通しを聞いたところ、「減少見込みである」が72件(91.1%)、「横ばい」が4件(5.1%)、「増加する見込」が3件(3.8%)と厳しい状況である。

③帰還の見通し

ア) 現在の生活での問題は、「事業再開の目処がたたない」が最も高く、次いで「東電の賠償が不満」「家族がバラバラになった」「健康に不安」が上位となっている(平成24年2月アンケート調査)

イ) 帰還の見通しについて、「除染がすんだら帰還」との回答は19件と低く、「生活基盤が整備されたら」「町民の多数が戻ったら」との回答が圧倒的に多い

ウ) 戻るつもりはないとの回答も81件ある

エ) 今後の生活の本拠について、「当面現在の避難先」が178件、「復興住宅街(仮の町)」が129件、「現在の避難先以外に求める」が78件、「現在の居住地に永住」が46件となっている

(3) 商業サービス業再開事例

① I社

1) 事業概要

【事業分野】 双葉郡随一の本格的な食品卸(食料品一般・治療・介護用食品)、

【従業員数】 17名、【再開先】 南相馬市原町区空き事務所

2) 事業再開の経緯

ア) 半年後、最低限の卸事業を再開したが実績は以前の2割程度に止まる。

イ) 当初相馬市公設市場空店舗への入居を打診したが、地元企業との競合を理由に拒否される。知人の紹介で空き国道沿いの事務所を借りて再開。

ウ) 流動性確保のため借りられる支援融資は満額活用し、買掛金は清算。

県の空店舗再開支援補助なども活用した。

3) 課題と展望

ア) 従業員17人が7つの県9つの市町村に散ったが、卸事業のみでの全員の雇用継続は難しい。卸業の競争は広域で、中通り・会津方面の取引は全滅の状態。浜通りも、休業中に各方面から侵食されてしまった。

イ) 病院・介護食は特殊だが社会的に必須の分野で、堅持したい。専門スタッフを社内に確保し、ホームページなどで個人客開拓に着手した矢先。

この分野で全県的に商売できると思うが、知名度をどう作るかが課題。

ウ) 原発復旧人員の給食とか、双葉郡として新たな仕事を作る必要。地域としての産業復興・産業関連のビジョンを検討すべき。製造から最終消費まで、サプライチェーン一つ欠けても欠損となり、復興とにならない。

②S社

1) 事業概要

【事業分野】 飲食業（そば・てんぷら・ラーメン）、【従業員数】 7名、

【再開先】 二本松市市民交流センター内空きテナント

2) 事業再開の経緯

ア) 二本松市の上客が、わざわざ避難所に見舞いに来て再開を勧めてくれた。

イ) 補助事業計画の作成、設備の持ち主との交渉に至るまで、二本松市の中心市街地活性化協議会がキメ細かにケアしローコストで再開できた。

ウ) マスコミとインターネットのおかげで、平均 100 人以上のお客様が来ている。宴会・仕出を除いた店売りとしては震災前よりアップした。

3) 課題と展望

ア) 自分の腕を信じて、なんとかやれるだろう、と思い再開した。補助がもらえるから再開、というのは本末転倒で、とんでもないことだと思う。

イ) 背中を押してもらわなければ、こんなに早く再開することはなかったろう。有難い。今後は自分が背中を押す役を果たして行きたい。

③M社

1) 事業概要

【事業分野】 総合小売（ショッピングセンターのキーテナント）、DVD

レンタル・フィットネスクラブ、【従業員数】 190 名、

【再開先住所】 田村市、相馬市、二本松市

2) 事業再開の経緯

ア) 発災直後、従業員がボランティアの形で、それぞれの避難先から近い仮設住宅で、イベント販売・カタログ販売など実施。

イ) 田村市船引の地元共同店舗 2 F 空店舗で小売は一部再開。競合と在庫リスクの低いフィットネスを相馬市・二本松市で再開。

3) 課題と展望

ア) 安定した雇用には店舗営業が必須。量販店との競争という面で、好適な顧客層相手にローコストで高い効率の稼動がポイント。むしろ小さな都市の街なかで、空地・空店舗が増え不足業種が目立つという所に貢献したい。

イ) 新しい分野・地域密着の経営への特化が必要で、介護福祉・御用聞き・交通などの生活支援との連携したシステムづくりが重要になると思う。

ウ) 避難先地域との連携で上記事業を段階的に進め、県内に散在する残り 8 割の従業員の雇用をなんとか復旧したい。

2. 二本松市と連携した復興事業の経過

(1) 復興イベントでの連携

- ア) 浪江町・商工会有志から二本松商工会議所に要望し、タイアップした形で開催した夏祭りイベントは地元商店街も売上高3割アップ。象徴的な出来事で、浪江焼きそばは長蛇の列だったが、地元露店の焼きそばも、早々に売り切れるなど、懸念された地元との競合はなかった。
- イ) 11月には同様に市民交流センターで、「十日市」が開催され、地元にとって新たな賑わいづくりとなった。

(2) 中心市街地活性化事業での事業再開支援

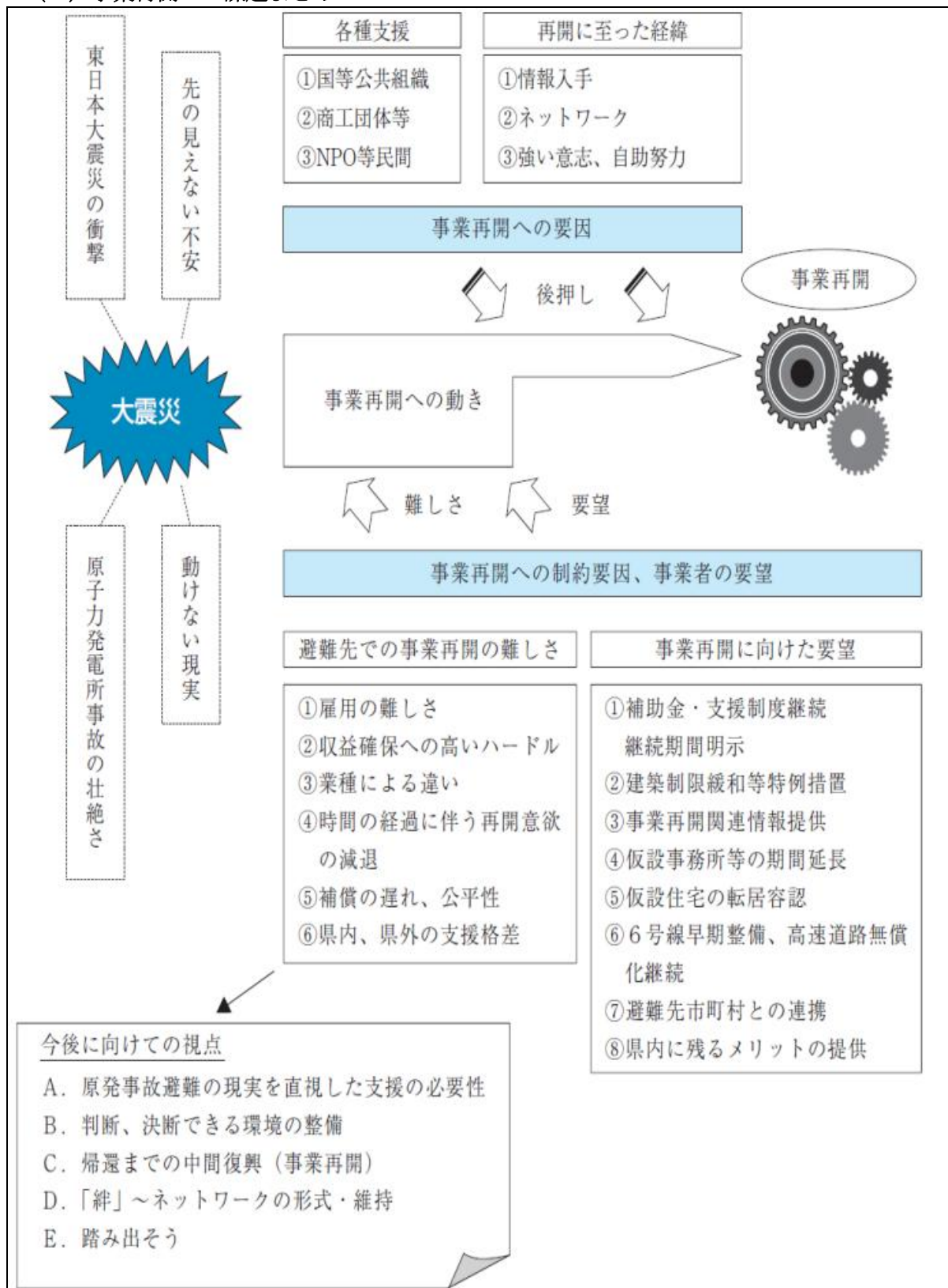
- ア) 二本松市も中心市街地の空洞化が著しく、商店街組織の弱体化が進行、独力での活性化事業が困難。中心市街地活性化協議会を設立し、「まちづくり協議会方式」として、『自分のまちは自分で創る』の精神、住民参加で空店舗創業支援などを実施してきた。
- イ) この事業の一環で、発災直後から、中心市街地内空店舗での移転避難事業者の事業再開支援を展開。事例の通り、一定の成果を収めた。

(3) 浪江復興塾による民間からの復興まちづくりビジョン策定

- ア) 事業再開率の低い商業サービス業は立地産業。住民の暮らしの場「まち」が定まらないと事業再開はおぼつかない。行政まかせでなく、民間主導で主体的に「まち」を構想し、アクションを起こすことが非常に重要。
- イ) 二本松との連携を担った商店街有志を中心に、復興まちづくり会社「まちづくりNPO新町なみえ」を設立。住民の絆づくりと調査・研究に着手。
- ウ) 二本松市の「まちづくり協議会方式」には、広汎な住民の合意と明確な組織づくりが必要。これを早稲田大学都市・地域研究所が、ワークショップなどにより支援してきた。
- エ) この経過から、NPO新町なみえが、早稲田大学の支援のもと、民間主導・町支援の体制で、復興まちづくりビジョン策定に着手。「浪江復興塾」と題し、各地の住民代表を集め、継続的にワークショップを展開。
- オ) 「早期帰還のまちづくり」「避難先都市での町外コミュニティ(仮の町)」「新天地での都市創造」の3つのケースについて、多面的かつ具体的に検討。「試しに、こんなことはできないか？」など、民間ならではの柔軟な議論を展開し、行政の復興ビジョンへの橋渡しを試みている。

3. 今後の復興方策の方向

(1) 事業再開への課題まとめ



(2) 今後の支援のあり方

①原子力発電所事故避難の現実を直視した支援の必要性

財物に対する賠償等の動きがほとんど見えない中であって、今後の生活設計、事業計画を考えることは出来ないというのが実態。

事業者側で大事なことは「復興」と「賠償」を両輪・一体で進めることであり、それぞれ明確な目標を持った主体の具体的なアクションが必要。

②決断できる環境の整備

事業再開の前に、放射能汚染という経験知のない災害が大きく立ちはだかっている。意欲喪失までぎりぎりの段階となっており、前に向いて進めるよう、一日も早く判断できる材料の提供、決断できる環境整備を期待してやまない。

③時間軸を意識した経営と中間復興

まだまだ決断しにくい日々が続いていくものと考えられる。一方で、「走りながら考える」で、一部でも事業を再開した中で、新たなネットワーク・新たなアイデアが生まれた事例も多い。この意味で、避難先地域での実験的な「中間復興」を図ることが重要。このローコストの実施・リスク軽減を担保する施策が望まれる。

④「絆」～ネットワークの形成、維持の大切さ

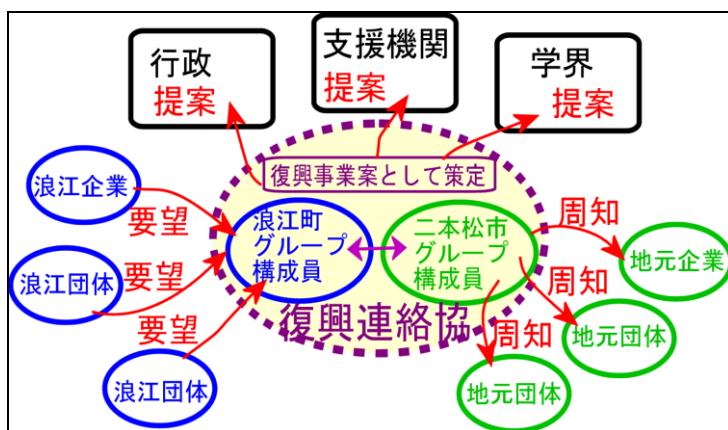
おカネ以外に、再開の契機となった情報入手が非常に重要。事例での「たまたま」を「必然」とするネットワークの形成、維持の大切さが痛感される。

⑤事業再開を意識した復興全体ビジョンの必要性

「仮の町構想」を福島県として主体的に進めることとなったが、事業再開支援の視点が重要。また、相互に無用の競合を回避し、WIN-WINを達成するアイデア、移転先地域の復興をも含めた産業復興ビジョンが必須である。

⑥一歩踏み出そう

最も必要な要素は、事業者の強い意志、そしてその気持ちに裏打ちされた自助努力の精神である。個別具体的な取組みを後押しする「ワンフォーオール・オールフォーワン」の精神と、地域ぐるみで具体的に支援する枠組みが必要。



第13回ふくしま復興支援フォーラム（6月7日）のご意見等

（「帰村宣言した川内村の現状と課題」＜遠藤雄幸氏＞）

- ★ 双葉郡全体の帰還のまさに先行例。戻ってみて解る課題が多いと思う。国・県は実験的な取組みを十分に、予算面・マンパワー面で支援すべきと思う。（K.S）
- ★ 川内村遠藤村長の御健闘に敬意を表します・残りの4／5の村外避難者の方々が、改めてふるさとに戻られることを期待するとともに、なかなか戻れない状況への支援をどうするのか、大変と思いますが、よろしくをお願いします。（H.S）
- ★ 川内村の先導的な取組について、ご講演をいただきまして、感謝申し上げます。（K.F）
- ★ 遠藤村長の村復興へ向けての努力に頭が下がります。帰村に向けて、除染、仮置場の設置、インフラの整備等、問題は山積みではあるが、仮の町構想、いわき市が限界になっている中、川内村につくるという可能性について触れられていて、目からうろこが落ちる思いでした。また震災以前より、医療施設を充実させるというお話にも期待が持てました。私も福島市で、双葉郡を含めた県全体の復興に何かできるか探して実行したいと思います。また、川内村にも必ず行こうと思いました。（K.Y）
- ★ 大震災、原発事故による放射線の不安、風評被害それに風化の危惧のある中、単に国、東電をせめるのではなく。帰村宣言まで、自分達のできることはやっていくという姿勢には感銘を受けました。今後ともリーダーシップを発揮され、村の復興・再生が果たせるように祈念しています。（R.N）
- ★ 住民・職員との関わりと住民の生の生かし方はどうされたのか。行政まかせでは安心感もてない～行政のトップでしょうが。避難中での自立施策はあったのか。（H.S）
- ★ 前々から関心のある川内村の話について、村長さん自らの話で聞けてよかった。忘れ去られないようにするためには、いろいろと手を打って発信していかなければと思った。（Y.I）
- ★ 国や県に責任を押し付けるのではなく、村から行動する姿勢を貫いて下さい。大変だとは思いますが、村長様、頑張ってください。（T.A）
- ★ 大変参考になりました。（K.H）
- ★ 遠藤村長の復興にかける取組みと思い。充分過ぎるほど伝わりました。（T.H）
- ★ 大変良かったです。村長のリーダーシップに感服しました。（Y.N）
- ★ 遠藤村長が帰村に向けて、先頭に立って対策を立てられていることが良くわかりました。今後、川内村の住民の行動、意識の変化等を注視して行きたいと思います。比較的少人数の川内村が復興のモデルケースとして成功することを祈念したいと思います。（Y.S）
- ★ 帰村宣言、仮置場等首長の決断が重要だと思います。リスクもありますが、その決断、リーダーシップに敬意を表します。借上げ住宅、県外避難者への情報格差は、法制上の問題がある。双葉8町村が一体となって、国や東電と交渉する仕組みが必要だと思う。（A.O）
- ★ 貴重なお話をお聞かせいただきました。村としての問題整理と復興ビジョンをしっかりと見据えていらっしゃると思いました。このようなリーダーを持つ川内村をうらやましく思います。（M.K）
- ★ 現状と課題が理解できた。行財政の問題が質問に出ていたが、98億円の予算の内訳

が知りたかった。国が責任を持ってやる部分は、除染の問題で予算措置は当然行っていると思うが、中央官庁が冷ややかになっている部分は、予算面だとすれば、住民に対する保障なのか、具体的に知りたかった。

- ★ 大変密度の高い報告と村長の識見・人柄に感銘を受けた。貴重な機会であったと思う。(S. I)
- ★ 貴重なお話を聞くことができました。どうか頑張ってくださいたいと、切に願います。(O. S)
- ★ 福島が他の地域に伝えられていない場面は、実際に見聞きしたことがあります。大きな事件でも、時間が経過すると、身近に見えないということで生活の中に埋没してしまう。決して福島だけのことではないことを伝えていく役割が、福島にいる人には求められているのかなと改めて感じました。(M. K)
- ★ もうそろそろ話になっているのかもしれませんが、講義録を出版してもいいのではないのでしょうか。(T. N)
- ★ 川内村の震災直後からのご様子、わかりやすくご説明頂きありがとうございました。故郷に戻りたいという方々にとって、帰る場所があるというのは心強いと思います。復興が進んでいくことを心より祈念しております。(S. K)
- ★ 誰もが経験したことの無い大変な災害に遭遇し、常に決断を迫られる厳しい状況が1年以上も続かれたと思いますが、常に冷静に村民の為に何が出来るかを追求し相互理解のもとに行政を進めてこられた姿勢にいたく感銘を覚えました。また、真摯でやさしさにあふれた遠藤村長の人間性に魅了されました。(M. K)

~~~~~

**【第15回 ふくしま復興支援フォーラム】**

日 時 7月12日(木) 18時30分~20時30分(予定)  
会 場 福島市アクティブシニアセンター(AOZ)大活動室1  
MAXふくしま4F(福島市曾根田町1-18)  
報告者 佐藤惣洋 氏(伊達市霊山町上小国在住)  
テーマ 『放射線からきれいな小国を取り戻す会』の活動と今後の課題

~~~~~

【会計報告】(2011. 11. 29~2012. 6. 20)

『収入』 会場カンパ 46,331円(12/22, 2/20, 3/8, 5/23, 6/7)
雑収入 1,258円
(計) 47,589円

『支出』

会場費 24,400円
(AOZ・11回(プロジェクター、暖房費等を含む) 23,400円
チェンバおおまち・3回(プロジェクター) 1,000円
街なかブランチ舟場・1回 0円)
講師交通費補助 10,000円
(計) 34,400円

『残高』 13,189円

(ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。)